

RIR1-14-4
(11-40, 883m)

RIR1-14-3



Sc=1:500

新規建設範囲

断面位置

Bor. No. 1
TP. 28.3m, L=10.0m

Bor. No. 2
TP. 28.4m, L=10.0m

Bor. No. 3
TP. 28.2m, L=13.0m

Bor. No. 4
TP. 28.3m, L=18.0m

測量基準点 (NT-7)
(H=28.205m)

測量基準点 (NT-6)

めくら暗渠

駐車場・倉庫

海部郡衛生処理事務組合
管理棟

ごみ処理施設

鉄板

駐車場・倉庫

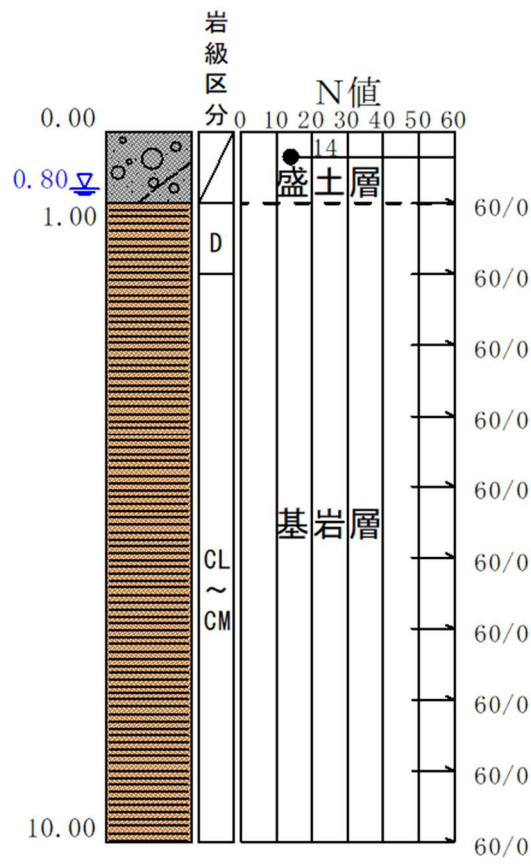
駐車場

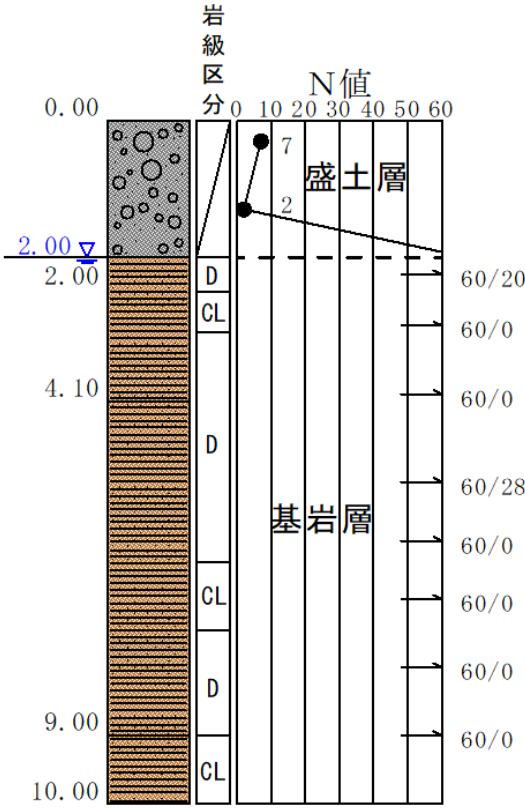
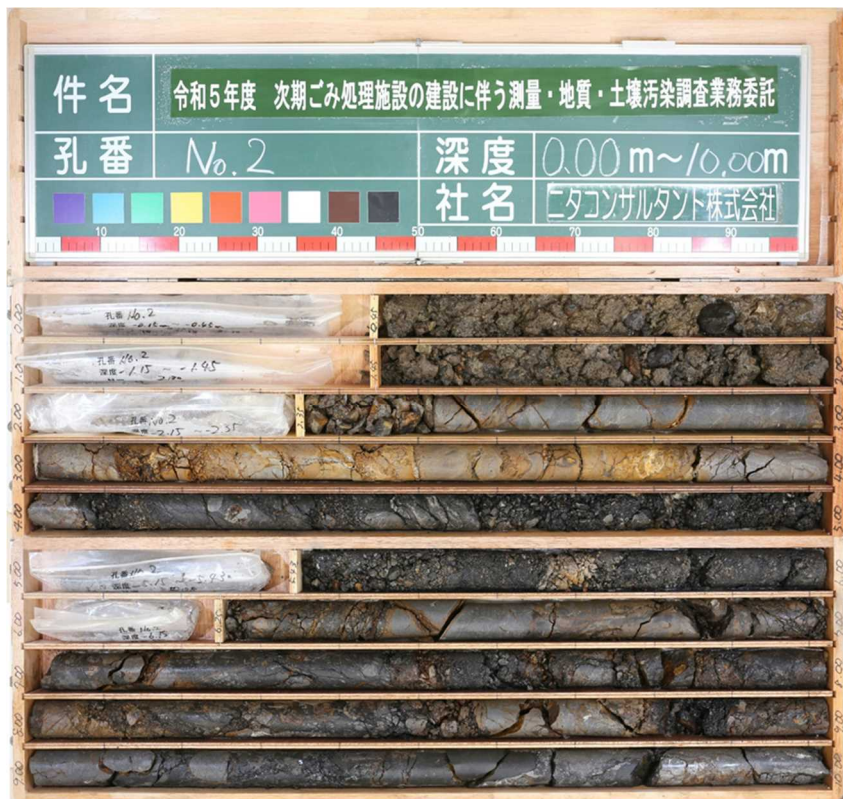
凡 例

● ボーリング箇所

⊕ 測量基準点

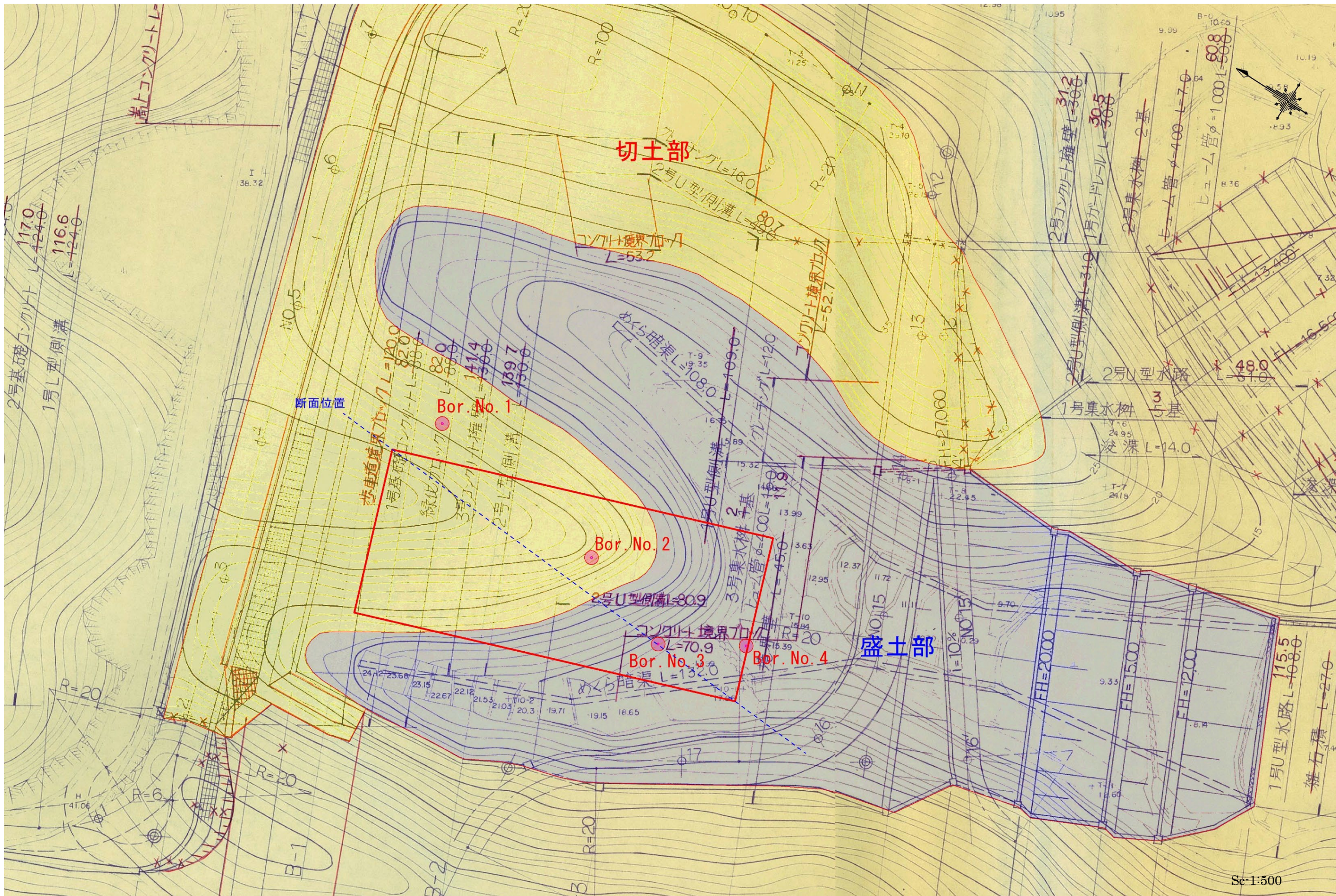
図 3.1 調査位置図

孔番	No.1	掘進長	10.00m	孔口標高	TP. 28.3m	緯度	33°39' 30.4"	経度	134°24'36.1"	孔内水位	GL-1.30m
調査目的	地層及び地質状況の把握。										
簡易柱状図				ボーリングコア写真				地層区分及び記事			
								○盛土層 GL 0.00～-1.00m 表層 5cm はアスファルトで覆われている。 礫径 5～20mm の亜角礫が主体の砂礫。礫種は砂岩、泥岩が主体である。マトリックスはシルト及び砂である。 N 値：14 ○基岩層 GL-1.00～-10.00m 基岩は泥岩で構成されている。 <GL-1.0～-2.0m>（岩級区分：D級） 礫状コアが主体。亀裂に沿って褐色風化が進行し破碎されている。GL-1.7~-2.0m の間は岩片状を呈す。 N 値：貫入不能（60 以上） <GL-2.0～-10.0m>（岩級区分：CL～CM級） 岩片状～短棒状コアで構成されている。亀裂面は水平面から 25～30° をなし、不規則に入っている。亀裂面は原岩色を呈し新鮮で、礫質は硬質である。 N 値：貫入不能（60 以上） ○地下水位 地下水位は GL-0.80m で確認された。基岩上面を流水しているものと考えられる。			

孔番	No.2	掘進長	9.00m	孔口標高	TP. 28.4m	緯度	33°39' 29.5"	経度	134°24'36.0"	孔内水位	GL-2.80m
調査目的	地層及び地質状況の把握。										
簡易柱状図				ボーリングコア写真				地層区分及び記事			
								○盛土 GL 0.00～－2.00m 礫径 5～30mm の亜角礫が主体の砂礫。礫種は砂岩、泥岩、石英で、マトリックスはシルト及び砂である。 N 値：2～7 ○基岩層 GL－2.00～－10.00m 砂岩優勢の砂岩泥岩互層。 <GL－2.0～－2.5m>（岩級区分：D級） 礫状コアが主体で、亀裂面に沿って褐変している。 N 値：60/20 <GL－2.5～－3.1m>（岩級区分：CL級） 岩片状～短棒状コアが主体で、亀裂に沿って褐色風化が進行している N 値：貫入不能（60 以上） <GL－3.10～－6.45m>（岩級区分：D級） 岩片状コアが主体で、全体に褐色風化が進行しており、一部破碎され粘土化している。 N 値：60/28～貫入不能（60 以上） <GL－6.45～－7.45m>（岩級区分：CL級） 岩片状コアが主体。亀裂面は水平面から 40～45° の角をなし、亀裂面に沿って褐色風化が進行している。 N 値：貫入不能（60 以上） <GL－7.45～－9.00m>（岩級区分：D級） 礫状～岩片状コアが主体。亀裂面は水平面から 35～40° の角をなし、亀裂面に沿って褐色風化が進行している。礫状部は指圧で圧碎できるほど軟質である。 N 値：貫入不能（60 以上） <GL－9.00～－10.00m>（岩級区分：CL級） 岩片状～短棒状コアが主体である。亀裂面に沿って褐色風化が進行している。 N 値：貫入不能（60 以上） ○地下水位 初日の地下水位は GL－1.1mで確認されたが、翌朝の地下水位が GL-2.80mと深くなっていることから遮水層となる基岩上面(GL-2.00m) を流水しているものと考えられる。			

孔番	No.3	掘進長	13.00m	孔口標高	TP. 28.2m	緯度	33°39' 29.0"	経度	134°24'35.7"	孔内水位	GL-4.65m
調査目的	地層及び地質状況の把握。										
簡易柱状図			ボーリングコア写真				地層区分及び記事				
岩級区分 0102030405060 N値 0.00 10.00 12.30 13.00 盛土層 基岩層 D CL 60/14 60/10 60/10 60/10 24 15 14 18 11 9 11 9 10 16			件名 令和5年度 次期ごみ処理施設の建設に伴う測量・地質・土壌汚染調査業務委託 孔番 No.3 深度 0.00 m~13.00 m 社名 ニタコンサルタント株式会社 10 20 30 40 50 60 70 80 90 10.00 11.00 12.00 13.00 14.00 15.00 16.00 17.00 18.00 19.00 20.00 21.00 22.00 23.00 24.00 25.00 26.00 27.00 28.00 29.00 30.00 10.00 11.00 12.00 13.00 14.00 15.00 16.00 17.00 18.00 19.00 20.00 21.00 22.00 23.00 24.00 25.00 26.00 27.00 28.00 29.00 30.00				○盛土 GL 0.00～－10.00m 礫径 5～30mm の亜角礫が主体の砂礫。礫種は砂岩、泥岩、石英で、マトリックスはシルト及び砂である。 N 値：9～18 ○基岩層 GL－10.00～－13.00m 強風化泥岩、砂岩が分布する。 <GL－10.00～－12.30m>（岩級区分：D級） 礫状～岩片状コアが主体で、岩芯まで褐色風化が進行している。岩質は指圧で圧碎できるほど軟質である。亀裂面角度は水平面から 30～35° を示す。 N 値：60/10～60/14 <GL－12.3～－13.0m>（岩級区分：CL級） 岩片状コアが主体で、亀裂に沿って褐色風化が進行しているものの、。礫質は硬質である。 N 値：嵌入 60/10 ○地下水位 地下水位は夕方の水位より翌朝の水位が低くなる傾向が見られ、最も深い地下水 GL－6.12mで確認されたが、遮水層となる基岩上面(GL-10.0m) を流水しているものと考えられる。				

孔番	No.4	掘進長	18.00m	孔口標高	TP. 28.3m	緯度	33°39' 28.7"	経度	134°24'36.0"	孔内水位	GL-4.65m
調査目的	地層及び地質状況の把握。										
簡易柱状図			ボーリングコア写真				地層区分及び記事				
岩級区分 0102030405060 N値 0.00 23 7 12 12 14 17 11 13 7 7 11 4/35 1/32 6 10 60/5 60/0 60/0 60/0 CM 盛土層 沖積粘性土層 沖積砂礫層 基岩層 12.60▽ 12.60 14.00 15.10 18.00			件名 令和5年度 次期ごみ処理施設の建設に伴う測量・地質・土壌汚染調査業務委託 孔番 No.4 深度 0.00 m~18.00m 社名 ニタコンサルタント株式会社 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100				○盛土 GL 0.00～－12.60m 礫径 5～20mm の亜角礫が主体のである。礫種は砂岩、泥岩、石英で、マトリックスはシルト及び砂である。 N 値：1～23 ○沖積粘性土層 GL－12.60～－14.00m 礫径 5mm 程度の礫と木片を混入する粘性土層である。 N 値：6 ○沖積砂礫層 GL－14.00～－15.10m 礫径 3～10mmの角～亜角礫が主体で、礫種は砂岩、泥岩である。マトリックスは粘土である。 N 値：10 ○基岩層 GL－10.00～－13.00m 泥岩が分布する。 短棒状～棒状コアが主体である。岩質は硬質で新鮮である。 ○地下水位 地下水位は夕方の水位より翌朝の水位が低くなる傾向が見られ、最も深い地下水 GL－11.20mで確認されたが、遮水層となる沖積粘性土層上面(GL-12.60m) を流水しているものと考えられる。				



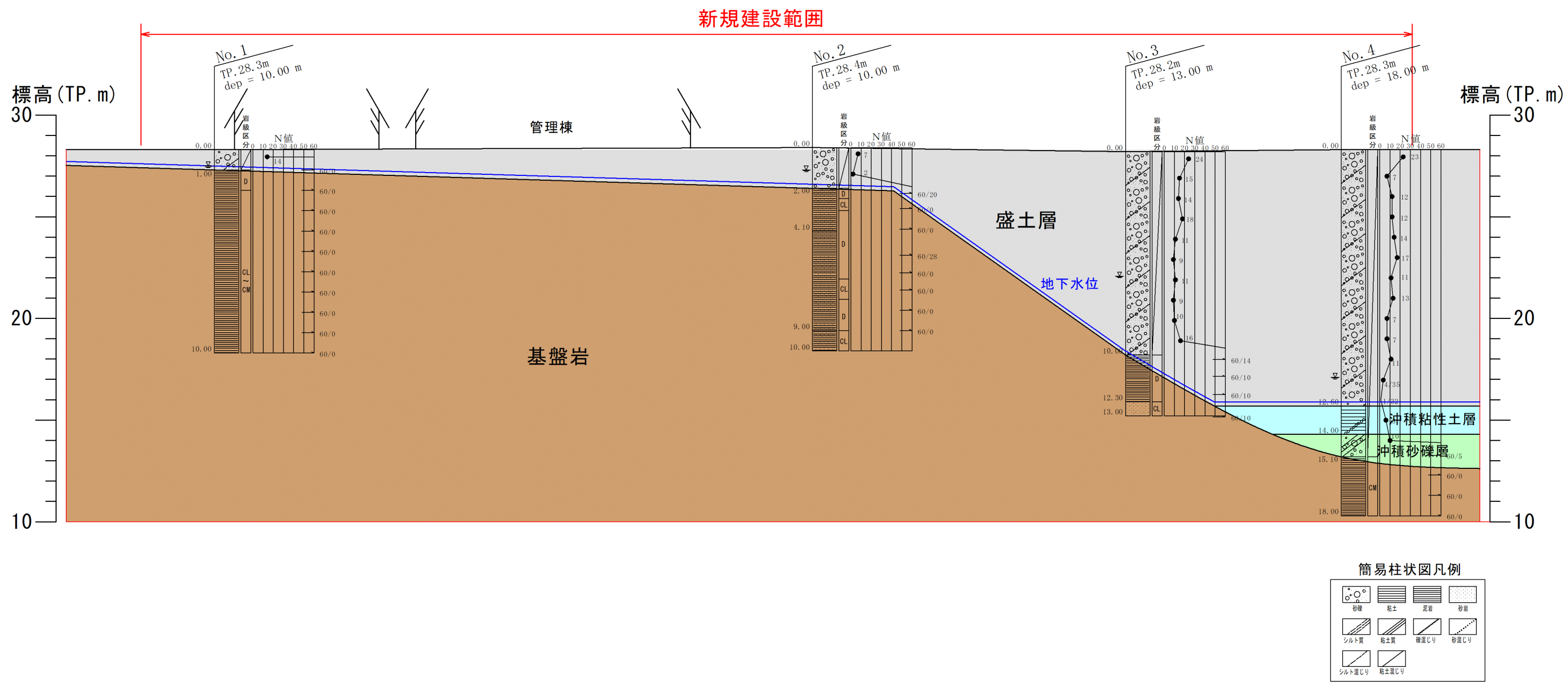


図 3.9 推定地層断面図